



昔からの下剤もいろいろあるようですが、その使い方を教えてください。

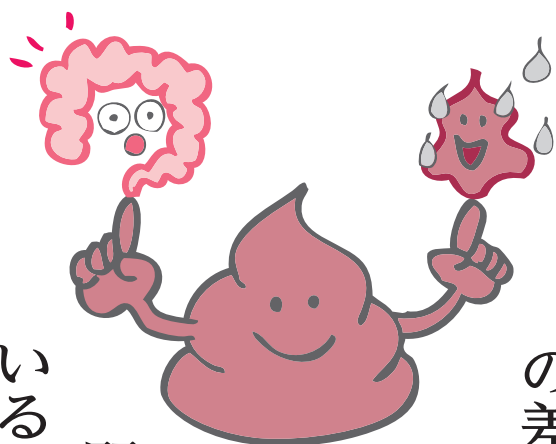


腸内細菌の重要性や高齢者の増加で便秘が増

えていることから、ここ数年新たな下剤が発売されていますが、昔からの下剤も比較的安価だということもあり、よく使用されています。これらは大きく

刺激性と非刺激性に分かれます。刺激性で代表的な薬はセンナと呼ばれる、江戸時代から使用されて

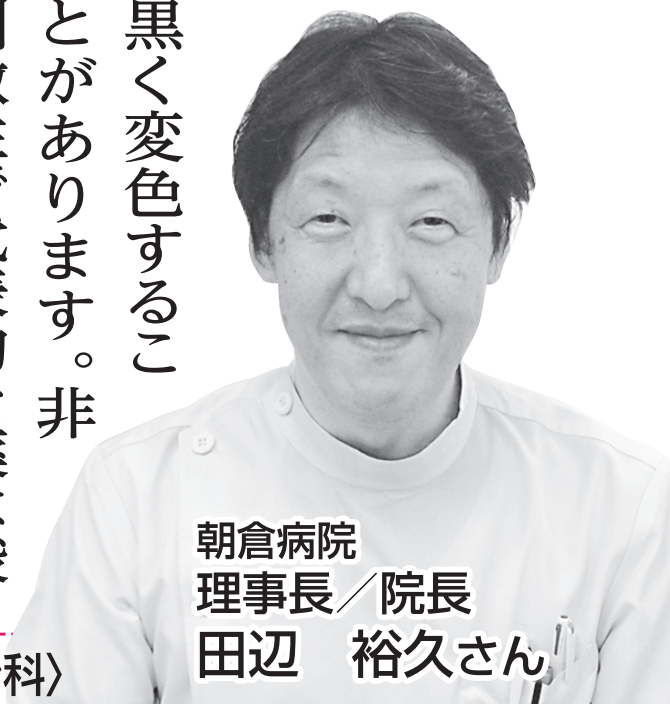
います。大腸を刺激して動かすので、即効性があります。たまたま腹痛や下痢などが、また長期使用では耐性と依存により使用量が増え、かえって便秘が悪化したり、大腸が



黒く変色することがあります。非

刺激性で代表的な薬は酸化マグネシウムで、浸透圧の差を利用して、便に水分を持たせて軟らかくさせるものですが、過剰だと下痢になったり、腎機能の低下して

いる方や高齢者は、血中のマグネシウム濃度が上昇で吐き気、喉の渇きや血圧低下などの副作用が出る場合があります。その利便性を知らしめよう。お通じと下剤、うまく通じ合えばいいですね。



朝倉病院
理事長／院長
田辺 裕久さん